

## 令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月28日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
自ら考え、ともに学ぶ問題解決的な授業の実践	自ら学ぶ ～個別最適な学び～	・自ら「問い合わせ」を見つけ、「探究心」をもって追究することができる生徒を育てる。 ・タブレットと書籍の有効活用をはかる。	A	A	・話し合いや自分の考えを発表する活動など、仲間と関わり合って学ぶことを楽しいと感じている生徒が多い。 ・教材の提示をしたり、デジタル教科書を使用したりする機会が以前より増えた。生徒は調べ学習のまとめをタブレットを用いて発表するなど、ICTを活用した授業を行なうことが定着し、その利用はとても増えている。	A	・タブレットの使用する機会が増えているのがよい。 ・EQ（心の知能指数）が重要なになってくる時代で、大切な目標である。	・タブレットをはじめとし、ICTを積極的に活用することで、能率よく、わかりやすい授業をするとともに、個々の学習が深まるようしていく。 ・授業や行事のなかで生徒どうしが関わり合える機会を意図的に設ける。
	共に学ぶ ～協働的な学び～	・「対話」や「話し合い」を通して交流し、互いに学び合うことができる授業を実践する。	A					
	学びを深める ～主体的・対話的で深い学び～	・「自分の考え」を深め、「新たな考え方」を創り出し、生活に生かすことができる授業を開拓する。	A					
みんなで輝くことができ、地域に愛される活力のある学校	自ら気づく力の育成	・「あたりまえ」を見る形にして、自分の役割を精いっぱい果たすことができる生徒を育てる。 ・感性を磨き、正しい心、善き心、美しい心に気づくことができる生徒を育てる。	A	A	・学校行事を中心として委員会や係活動、部活動などにおいて自分の役割や責任を果たすと、前向きに行動できる生徒が多い。上級生の活躍する姿を見て、「次は自分たちも」というよき伝統が受け継がれている。	A	・本陣まつりなど、地域とのつながりをより深く感じられる体験活動を、これからも推進し、継続してほしい。 ・自分のことを前向きにとらえる生徒が増えていてよい。	・これまでどおり、生徒の特性を生かし、個々の生徒が活躍できる行事や場面を設定し、主体的・創造的に活動できるように推進していく。 ・キャリア教育や進路指導をとおして、自己決定ができるような機会を設ける。学校生活のあらゆる場で、自己を見つめ、よりよい選択ができるよう、支援する。
	家庭や地域との連携	・生徒が考え、生徒が主体となり、みんなで協力することができる活動を推進する。 ・地域に学び、地域と共に成長する生徒を育てる。	A		・本陣まつりや職場体験学習、総合的な学習の時間では、地域の人々との連携や協力のもと、企業や施設を大いに活用し、生徒が地元への愛着や誇りをもてる学習の場が充実してきている。様子を伝える学校HPを地域のかたにも紹介する機会をさらに増やしたい。			
	キャリア教育の推進 ～夢と志は自分を変える原動力～	・志を立て、自分の夢の実現に向けて挑戦を続けることができる生徒を育てる。 ・友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるようにする。	A					
みんなが安心し、楽しく過ごすことができる思いやりのある学校	自分らしさを認め合う「居場所」をつくる	・教室が「安心・安全な場」となるように、互いを認め合うことができる集団づくりをする。 ・「対話」して互いの違いを理解し、「思いやり」と「感謝の心」で行動できる優しい心を育てる。	B	A	・一緒に悩んでくれる先生がいる」に対し「とても思う」といちばん多く回答したのは、生徒だった。 ・友達とのトラブルや集団生活への不適応、家庭の問題など、生徒の悩みは多種多様である。教師は生徒に寄り添い、また、保護者との関係を築きながら一緒に解決の道を探っている様子が見受けられる。	B	・自己肯定感が高い子が多く、育っていることがわかる。 ・コミュニケーション能力の低下から、心の教育の必要性を感じる。	・教師は生徒の話をよく聞き、安心して学校で過ごせるよう関係性を築いていく。 ・トラブルなどが生じた際の、生徒や家庭への対応について、スピード感と誠意が伝わるようにしていく。
	表現力と判断力の育成	・考えて行動し、自分の言動に責任をもつことやその場に応じた判断ができる生徒を育てる。	A					
新しい時代の学びを支える環境整備	授業力の改善	・教師が火種となり、生徒の心に火をつける。 ・自分の学びを自ら向き合える学習環境を整備し、生徒の実態に合った支援を推進する。	A	B	・学年主任を軸としたOJTはさることながら、為成会（現職研修）では教師の力量向上につながる授業力アップや生徒指導のノウハウを、先輩教師から若手へ伝える研修も設けた。	B	・採点システムの導入によって、生み出された時間をよりよい活動にあててほしい。 ・変化する社会へ、柔軟な発想で業務改善を図ってほしい。	・生徒が「授業が楽しいから学校へ行きたい」と思えるよう、力量向上のために自己研鑽に努める。 ・生徒に対する教職員が心身ともに健康でいられるよう、仕事の効率化を図るなどタイムマネジメント力を身につける。
	業務の改善	・柔軟な思考と果敢な行動力で授業改革・業務改革をすすめ、勤務時間外在校時間の減少につなげる。 ・今まで大切にされていたことを新しい視点を加えた見方で業務改善をおこなっていく。	B		・まず教師が元気であることが大切だと考え、行事や日課の見直し、採点システムの導入など、業務の改善に努めた。その結果生じた時間を生徒のために活用している。			

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】